

Japan Shipbuilding Digest

No.48

トピックス

常石造船

Tsuneishi Shipbuilding

常石集団(舟山)造船有限公司が大連の国際海事展
「SHIPTEC CHINA 2016」に初出展

中国浙江省に位置する常石造船株式会社の中国のグループ会社である常石集団(舟山)造船有限公司は、2016年10月25日(火)から28日(金)の4日間、大連世界博覧広場(Dalian World Expo Center)で開催された国際海事展「SHIPTEC CHINA 2016」に初めて出展しました。「打破常識、前進常石」をスローガンに、挑戦を続ける姿勢を世界の海事関係者へアピールしました。

「SHIPTEC CHINA 2016」は今年12回目の開催で、中国企業を中心とした600以上の企業が参加し、4日間で2万5000人が来場。常石集団(舟山)造船有限公司の出展ブースでは、開発を進めている客船のスペックと室内イメージを公開したのをはじめ、2,800TEU型コンテナ船、LR1型プロダクト船、家畜運搬船など、市場ニーズの多様化に対応する新船型も紹介されました。

会場では大型スクリーンによる新船型のプロモーション映像に加え、船型開発における水槽試験で活用する木製模型と16種類のプロペラ模型を展示するほか、地域との連携など事業活動の現状と展望を紹介するプレゼンテーションも実施されました。

設立から14年目を迎えた常石集団(舟山)造船有限公司は、中国人リーダーやスタッフが最前線で活躍し、質の高い船づくりを実現しています。「SHIPTEC CHINA 2016」では、中国のみならず世界の海事関係者に、挑戦し前進し続けるスピリット“Challenge & Progress, TSUNEISHI”=「打破常識、前進“常石”」の実現を訴求しました。



【常石集団(舟山)造船有限公司の出展ブース】

新来島豊橋造船

Shin Kurushima Toyokashi Shipbuilding

新来島豊橋造船ファミリー工場見学会&第6回技能オリンピック

さる9月17日(土)にファミリー工場見学会&第6回技能オリンピックを開催しました。

「ファミリー工場見学会」とは弊社社員、協力会社従業員、関係会社及びOBのご家族やご親戚に対して、工場見学をはじめとした様々なイベントをご用意し、楽しんで頂こうという趣旨の催しです。また、同日に、今年で第6回目となる「技能オリンピック」も行いました。職人達が日頃培った技術を活かし、溶接やフォークリフト、塗装など、造船業に関する全8種目をそれぞれ競い合います。当日は約1,000名のお客様にお越し頂き、盛大に行うことが出来ました。

【ファミリー工場見学会】

お越し頂いたお客様には最後まで楽しんで頂ける様、色々なイベントをご用意致しました。バスでの工場見学や徒歩での船内見学、フォークリフトや救命艇などの展示も行い、お客様に船造りの現場を、出来るだけ間近で体験して頂きました。また毎年好評頂いている高所作業車体験では、社員と一緒に高所作業車に乗りブームを最大限まで伸ばしその高さを体感して頂きました。事務所内でも、展示物を出したり、造船に関するクイズを行ったり、またお子さん達が遊べるよう各種ゲームコーナー等も用意しました。弊社自慢のランチを食べて頂いた後には、最も関心の高い(?)抽選会を行い最後の最後まで大盛況でした!



【屋外展示や高所作業車体験】



【船内見学】



【フードコーナーの様子】

【技能オリンピック】

今年で6回目の開催となる技能オリンピックですが、例年よりも若年者の活躍が目立った大会となりました。ベテランの職人も若手に選手枠を

譲り、今まで培った技量を、自信を持って発揮出来る様バックアップしてくれていたのではないかと思います。そんな中、見学にお越し頂いたご家族の皆さんは選手達の普段は見せない真剣な「造船マンの顔」に少し驚かれたのではないのでしょうか？

大会後には表彰式を行い、各競技の上位3名(3チーム)に金、銀、銅メダルと表彰状、副賞を授与しました。熱い戦いを制した選手からは、第7回技能オリンピックへ更に技量を上げて金メダルを目指す意気込みが感じられました。次回も期待しています！



【技能オリンピック(足場設置技術競技)】



【技能オリンピック(一般見学者の様子)】

川崎重工業

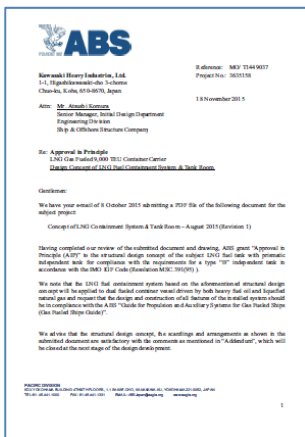
Kawasaki Heavy Industries

【1】独立方形 LNG タンクの基本承認を ABS と LR より取得

川崎重工は、LNG 燃料貯蔵用の独立方形 LNG タンクの基本承認(AIP: Approval in Principle)をアメリカ船級協会(ABS)並びにロイド船級協会(LR)より取得しました。

本基本承認は、IGF コード※1 および各船級協会規則に基づき、両船級協会よりそれぞれ付与されたものです。

今回基本承認を取得した LNG タンクは、船舶からの排出ガス規制が強化される中、クリーンエネルギーとして期待の高まる LNG を燃料とする、大型 LNG 燃料推進船への搭載を主に想定したものです。



【設計基本承認 (ABS)】



【設計基本承認 (LR)】

本 LNG タンクの主な特長は次の通りです。

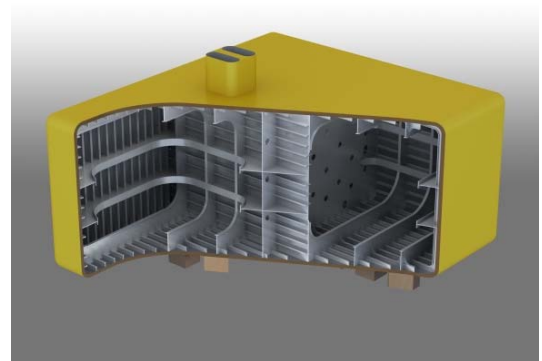
- (1) 方形タンクの特徴により容積効率が高く、タンク搭載区画の形状に合わせた自由度の高い形状の設定が可能
- (2) IMO 独立タンク Type-B に分類され、当社が長年培ってきた、同じく IMO 独立タンク Type-B に分類される MOSS 方式球形タンクの設計技術を活かし、LNG 温度(-163℃の低温)下でも信頼性を有する構造強度設計を実現

- (3) タンク内での LNG の大きな動揺を防ぐ制水隔壁を配置し、積載レベルの自由な設定が可能
- (4) 防熱システムには当社独自技術であり、世界最高レベルの性能を有する川崎パネルシステムを採用

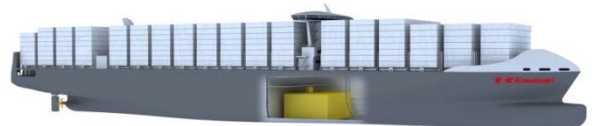
当社は、主力製品である LNG 運搬船に加え、本年竣工予定の世界初の LNG 燃料推進自動車運搬船を初めとして、環境にやさしい船舶として益々需要増加が予想される LNG 燃料船の開発・建造にも積極的に取り組んでいきます。

今後は、今回基本承認を取得した独立方形 LNG タンクを搭載した船舶の開発・建造にも注力し、環境負荷の低減と輸送効率の向上に貢献していきます。

※1 IGF コード(International Code of Safety for Ships using Gases or other Low-flashpoint Fuels): ガス又はその他の低引火点燃料を使用する船舶の安全に関する国際コード



【独立方形 LNG タンク】



【大型 LNG 燃料コンテナ船】

【2】自動車運搬船「AUTO ENERGY」の引き渡し

川崎重工は、11月29日に中国南通市の南通中遠川崎船舶工程有限公司(NACKS)において、ノルウェーのUECC (IOM) LTD(ユーイーシー アイオーエム エルティーディー)向け4,000台積み自動車運搬船「AUTO ENERGY(オート エナジー)」(2017年1月下旬に命名予定)(当社 第8020番船/NACKS第NE213番船)を引き渡しました。

本船は、世界で初めて主機関および発電機関に二元燃料エンジン(ME-GIエンジン)を採用した自動車運搬船の2番船です。船用燃料油(重油)の他、クリーンエネルギーとして注目されている液化天然ガス(LNG)を燃料として使用可能で、国際海事機関(IMO)による各種排ガス規制に対応できます。

当社は、LNGに関する広範な総合技術のシナジーを活かし、LNG燃料船の建造のみならず、一般 商船全体のガス燃料化のため、LNG燃料供給船をはじめとするサプライチェーンの構築に今後も積極的に取り組んでいきます。

本船の引き渡し、主要目ならびに特長は次のとおりです。

【引き渡し】

2016年11月29日

【特長】

- 1) 本船は、主機関および発電機機関に二元燃料エンジンを採用しています。重油の他、LNGも燃料として使用可能であり、LNG使用時は、従来の重油焚き主機関と比べて、排気ガス中の二酸化炭素(CO₂) 23%、窒素酸化物(NO_x) 13%、硫黄酸化物(SO_x) 92%、粒子状物質(PM) 37%の排出量を削減することが可能です。LNG使用時には、EEDI規制のフェーズ3を達成できます。
- 2) 倉内は、スペースを有効に利用できる船体構造を採用し、標準車を3,985台積載できるスペースを確保しました。また、乗り込みデッキは、危険物を積んだ車両の積載が可能です。
- 3) 倉内に配置された10層のカーデッキの内、2層は可動式となっています。また、この可動式デッキを格納することにより、2層分の高さ(空間)が確保され、バスやトラック等の大型車を含む多様な車種の積載に柔軟に対応できます。
- 4) 最高水準の耐氷仕様アイスクラス「1Aスーパー」を採用しており、バルト海の厳しい氷海域を航行することが可能です。

主要目

全長(垂線間長) × 型幅 × 型深さ: 約 181.00m(170.50m) × 30.00m × 30.22m
 満載喫水(型): 9.60m
 載貨重量トン数: 16,990 DWT、総トン数: 42,424GT
 自動車積載台数: 3,985 台
 主機関: MAN B&W 8S50ME-C8.2-GI ディーゼル機関 × 1 基
 連続最大出力: 11,100kW × 113 回転/分
 乗船定員: 30 名
 船級: ロイド船級協会(LR)、船籍: MADEIRA



【AUTO ENERGY】

三井造船

Mitsui Engineering & Shipbuilding

60,000重量トン型ばら積み貨物運搬船「メディ ブリスベン」引き渡し

— エコシップ「neo60BC」の18隻目竣工 —

三井造船株式会社(社長: 田中 孝雄)は玉野事業所にて建造中でありました、パナマ国、アジアシッピング社(ASIAN SHIPPING S.A.)向け60,000重量トン型ばら積み貨物運搬船「メディ ブリスベン」(MEDI BRISBANE、当社第1917番船)をこのほど完成し、本日同事業所にて引き渡しました。

本船は、当社の環境対応・低燃費船ラインナップ「neoシリーズ」の第三弾、60,000重量トン型バルクキャリアー「neo60BC」の18番船となります。

【特長】

1. 4基のクレーンを装備した5ホールド(貨物艙)の汎用バルクキャリアーであり、当社56BCの使い勝手を踏襲している。
2. 従来のパナマックス幅で載貨重量 60,000トン以上を確保し、当社56BCから大型化しつつも、港湾や航路の汎用性を維持している。
3. 石炭、鉄鉱石、小麦、大麦、大豆をはじめとした多様なバラ積み貨物に対応可能な他、長尺物やホットコイル等の半製品輸送も対応可能である。
4. 船首および船尾には新開発の省エネ船型を採用し、平水中の抵抗推進特性のみならず、波浪中の耐航性や操縦性にも配慮している。
5. 長さ／幅ともこのクラスでは最大級のハッチ開口を持つ。
6. 主機関には MARPOL NO_x 排出規制(Tier II)を満たした電子制御エンジンである三井-MAN B&W ディーゼル機関 6S50ME-B9.3 を搭載し、幅広い出力域において低燃費を実現している。
7. SO_x 排出規制強化に配慮し、ECA(排出指定海域)内の航行に対応できる低硫黄燃料油専用のタンクを有している。

主要目

全長 × 型幅 × 型深さ: 約 199.99m × 32.25m × 18.50m
 夏期満載喫水(型): 12.50m
 載貨重量トン数: 60,386MT、総トン数: 34,589 GT
 主機関: 三井-MAN B&W ディーゼル機関 6S50ME-B9.3 × 1 基
 航海速力: 14.5 ノット(常用出力)
 最大搭載人員: 25 名
 船級: 日本海事協会(NK)、船籍: パナマ
 引渡日: 2016 年 11 月 29 日



【メディ ブリスベン】

今治造船

Imabari Shipbuilding

「いまぞう君」ゆるキャラ GP 愛媛のてっぺんで3位に



【いまぞう君】

全国各地のご当地キャラや企業キャラが一堂に会して人気を競う「ゆるキャラグランプリ 2016 in 愛媛のえひめ」が11月5・6の両日、松山市の城山公園で開かれました。当社の応援船長「いまぞう君」も愛媛県などの要請を受けて参加。同県内のゆるキャラ 49 体による「えひめのとっぺんグランプリ」では、見事に3位入賞を果たし、檜垣幸人社長が笑顔で表彰状を受けました。

今年のグランプリには、全国の人気ゆるキャラ 1400 体が出場しました。初参加の「いまぞう君」はインターネット投票の開始とともに得票を積み重ねていき、最終結果は、総合部門(ご当地部門と企業・その他部門の合計)で27位、企業・その他部門で8位と健闘し、会場に詰めかけた県民や観光客らの大きな拍手を受けました。

愛媛県からはこれまで2012年に同じ今治市の「バリイさん」がグランプリを獲得、昨年は県のイメージキャラクター「みきゃん」が2位に入っているだけに、「いまぞう君」には大きなプレッシャーでしたが、社員の皆さんや家族、協力会社の関係者、取引先や地域の方々から温かい支援を受け、順調に票を伸ばし、総合部門と企業・その他部門も上位に入ることができました。

松山城の天守を見上げる「ゆるキャラグランプリ 2016」会場には、2日間で約5万 1000 人が詰めかけ、ホスト役のバリイさんやみきゃん、熊本県の「くまモン」、静岡県浜松市の「出世大名家康くん」などの人気ゆるキャラをはじめ、各地のゆるキャラ約 200 体が集結しました。それぞれのブース前では、親子連れや若い人たちと交流したり、地元の特産品をアピールしたり、名刺を配って投票を呼び掛けていました。

最終日は初めに愛媛県内のゆるキャラNo.1を決める「えひめのとっぺんグランプリ」があり、「いまぞう君」は3位に入賞。「いまぞう君」は船のキャラクターらしく、ゆつくり堂々とメインステージ中央に進み、檜垣社長と並んで中村時広・愛媛県知事から表彰状を受けました。司会者から受賞の感想を聞かれた「いまぞう君」は、今治人事総務グループの柳川恵梨子さんを通じて「ありがとっぺら。皆さんの応援で3位になりました。来年5月25日から27日まで開催します『バリシッポ 2017』にも、ぜひお越し

ださい」と、感謝と喜びの言葉を述べ、西日本最大の海事展「バリシッポ」をアピールしました。

当社は、今後も「海事産業」や「造船業」の魅力をより多くの皆さんに伝えられるよう、応援船長「いまぞう君」と一緒にがんばってまいります。これからもよろしくお願いします。

ジャパン マリンユナイテッド *Japan Marine United*

フィリピン共和国運輸省向け 40m 級多目的船

2 番船の命名式及び出航

ジャパン マリンユナイテッド株式会社は、10月27日(木)、フィリピン共和国運輸省より受注した 40m 級多目的船10隻のうち2番船の命名式を、アーサー・P・トゥガデ・フィリピン共和国運輸大臣ご臨席のもと横浜事業所磯子工場において行いました。本船は「MALABRIGO(マラブリゴ)」と命名されました。船名はフィリピンのルソン島バタンガス地方の灯台に由来しています。



【命名式】

また本船は12月2日(金)、1番船と同様にフィリピン沿岸警備隊への納入のために横浜事業所磯子工場の岸壁を出航しました。当日は同工場のメンバーを始めとした関係者が岸壁から旗を振りながら見送り、また、本船乗組員も敬礼にて見送りに応えました。



【出航の様子】

残る8隻も今後、順次建造しフィリピンに納入されます。本件は当社にとって統合後初の円借款 ODA による事業であり、これをさきがけとして今

後も世界各地域のODA案件に対し積極的に取り組み、国際協力に貢献してまいります。

本事業は日本政府の有償資金協力(ODA)「フィリピン沿岸警備隊 海上安全能力強化事業」(STEP 案件:本邦技術活用条件)において、フィリピン共和国運輸省が発注者となりフィリピン沿岸警備隊が使用する40m級多目的対応船10隻の建造および特別予備品の供与を行うものです。

<主要目>

全 長:約 44.50メートル
幅 :約 7.50メートル
深 さ:約 4.00メートル
定 員:士官 5名/乗員 20名 計 25名
航海速力:約 15ノット
船 級:日本海事協会

新来島どっく

Shin Kurushima Dockyard

乗船研修体験記(技術設計本部 船装設計課 古賀志郎)

この度、乗船研修の機会をいただきましたので、ご紹介致します。(新来島広島どっく建造、載荷重量 25,000トン型ケミカルタンカー)

~~~~~

振り返ってみれば約 1 ヶ月という短い期間ではありましたが、荷役やタンククリーニング、航海中の各種作業や乗組員の生活といった、実際に船が運航される様子を体験することができました。

引渡し後の船が、実際どのように運航しているのか、乗組員がどのような作業を行っているのかは、以前から興味を持っていて、話があった時は不安もありましたが、実際に乗船しながら学習できる機会は中々ないことなので、不安よりも期待の方が大きかった事を覚えています。

実際に船の上で生活したり様々な作業を経験してみると、私達を使い易さを考えて設計したつもりでも、乗組員の方々には使いにくかったり、引渡しから 5 年目に突入している船がどういう状態になっているか、また、どういった不具合が出ているかなどを知ることができました。このように、実際に見たり聞いたりすることで初めて知り得ることが多く、この貴重な経験は、自分自身にとってプラスになったことは言うまでもありません。



今回の研修では、大分県の佐賀関から乗船し、シンガポール、インド、サウジアラビアを経由して、最終カタールのメサイードで下船しましたが、各港には必ずしも明るいうちに入港する訳ではありませんでした。

補油目的のシンガポールでは夜中に到着したり、サウジアラビアでは、荷役待ちの休日に連絡が入って、急遽準備に取り掛かることもありました。また、荷役中には交代で深夜作業をしたりと、変則的な作業時間にもしっかりと対応しなくてはならないなど、非常に大変だという印象を受けました。

航海中には、メンテナンスや塗装作業、補修作業などを毎日こまめに行っていました。船上にある限られた道具や材料のみで、工夫をしながら様々な作業を行っている姿に感銘を受けました。と同時に、各艤装品についても、使いやすさだけを考慮するのではなく、メンテナンスや塗装作業などにも気を配って設計する必要性を、身をもって経験することができました。

今後は、この研修で学んだことや感じたことを活かしていきます。

最後になりましたが、今回の乗船研修の機会を与えていただき、様々な手続きにもご尽力くださいました関係者の皆様に感謝申し上げます。また、乗船期間中、ご迷惑を掛けただけにもかかわらず、約 1 ヶ月の間、公私共々お世話いただきました船長以下、乗組員の皆様にも感謝申し上げますと共に、今後の航海の無事を心よりご祈念申し上げます。



【左:同僚、中:船長、右:筆者】

## サノヤス造船

*Sanoyas Shipbuilding*

### 【1】自航式多目的船「AUGUST EXPLORER」体験乗船

(技術本部 艤装設計部 船装設計課 竹内 智彦)

前号で竣工記事を掲載させていただいた自航式多目的船「AUGUST EXPLORER」。私はこの船の基本計画にあたっていた当時、作業船の運用に関する知識がほとんどなかったことから実際の作業船に乗船する機会が欲しいと思っていました。結局、その機会に恵まれたのは本船の竣工後となってしまいましたが、船主の東洋建設様のご厚意により初仕事に臨む航海に乗船させていただきました。

8 月末に引き渡された本船は兵庫県鳴尾浜の岸壁で初工事に向けての準備を行った後、隠岐の島に向けて出航。2 日間の航海を経て隠岐の島に入港しました。航海の甲板は日本海でしたがが危惧していたほど

の動揺はなく、買い込んだ酔い止めの出番はほとんどありませんでした。船長もこれまで乗っていた船より高い航海性能に満足している様子でした。

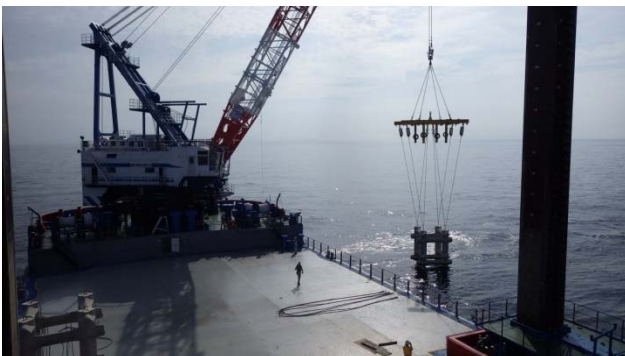


【日本海を航行中の様子】

隠岐の島入港後しばらくは岸壁と湾内で作業機材の調整や倉庫の整理などを行っていました。漁礁の沈設は水産庁の事業として長期計画によって行っているもので、計画通りの位置に正確に置くことが求められるため、その位置を検出するための機材の調整に多くの時間が割かれていました。

予定していた時期に台風が接近したため作業が一時延期になり、湾内で待機している時間が長くありました。その間、せっかく隠岐の島に来たのだからと全員で上陸して隠岐牛の焼肉を食べに行く機会がありました。その際に島民の方々に聞いたところによれば「マンションが建ったかと思った」「かっこいい」「大きい」と話題になっているようで、設計に携わった身としては誇らしい気分でした。

長い待機を経て臨んだ漁礁沈設。日中に岸壁からの積み込みを終え、夜間に出航して早朝から沖合での設置工事を始めるというスケジュールで進行了。従来の作業船ではアンカーと操船ウインチに補助船の助けを借りて行っていた位置決めを、本船はスラスターのみで素早く行うことができ、自航船の強みを示していました。無事所定の位置にブロックを沈設し鳴尾浜への帰路につきました。今回は慣熟運転の意味もあったためスポットでの工事参加でしたが、新造作業船としての性能を十分に発揮できていたといえる働きでした。



【漁礁沈設作業の様子】

今回の乗船では実際の工事に従事する本船の運用を一連の流れで見聞することができ、また乗組員の方が船に何を求めているかも多く聞くことができました。この経験は今後も長いお付き合いになるであろう本船

のアフターサービスに、そして新造作業船の設計に活かしていこうと考えています。

## 【2】留学体験記

当社は、海外の経済、風土、文化等、広く海外の知識を吸収し、語学能力向上と国際的視野を広め会社の発展に寄与することを目的として、毎年、語学留学生を海外へ派遣しています。今年も2名が海外で多くのことを学んできましたので、今回はそのうち1名(技術本部 技術開発部 開発設計課 秋山 悠)の体験記をご紹介します。

2016年4月から9月中旬までの約半年間、語学留学のためにイギリスのロンドンおよびケンブリッジにそれぞれ約3か月ずつ滞りました。

留学当初、教師・友人が何を話しているのかほとんど聞き取れず、非常に苦労しましたが、ここでめげては何のためにここに来たかわからない、と自らを奮い立たせ、色々な人に積極的に話しかけに行き、少しでも話す機会を持つように心がけました。初めは一言二言話すことで精一杯でしたが、徐々に現地の生活にも慣れ、次第に皆が話している言葉も聞き取れるようになり、おかげで数多くの友人が出来ました。

英語力を伸ばす際に効果的だったのは、もちろん学校の友人達と会話をするのが大きかったのですが、それに加えて、日本に興味があるネイティブの人々と、現地の日本人が集まって会話をする会合に定期的に参加したことも大きかったように思います。この会合に参加するネイティブは皆日本が大好きで、片言の日本語を交えて積極的に会話してきます。日本語についての質問もされましたし、逆にこちらから英語に関する質問もしたりと、勉強にもなり且つネイティブのアクセントにも慣れるとても良い機会でした。



【会合の様子】

週末を利用して欧州の様々な場所に旅行することもできました。中世の面影を残す建築物や遺跡に感銘を受けました。このように世界を見ることは誰もが経験できることではないので、語学力の伸び以外にも、こういった経験は何事にも代え難い貴重な経験となりました。そして何と言っても一番の財産は、世界中でできた友人達だと感じています。彼らとの出会いは私の視野を大きく広げてくれました。初めはどうしても遠慮してしまい、無意識に壁を作ってしまったように感じます。ですが、彼らとの交流を通じ、国籍や生まれ育った環境、文化が違っても同じ人間であり、国籍は違えどコミュニケーションに一番大切なのは誠実さであると感じることができました。



【サグラダファミリアにて】

この留学を通じて自分の器を大きくできた気がしています。考え方一つにしても、他国の学生の考え方、我々と共通している部分、感性の違い、それを受け入れる器量など、あらゆる箇所で感じるどころが多く、それらを受け入れ、時には自分のものとして取り入れることで人間としての成長を実感できました。この経験を活かして語学力だけでなく人間力の面でもさらに自らの器を大きくいき、会社に貢献できる技術者になりたいと感じております。

## 三菱重工業

Mitsubishi Heavy Industries

### アストモスエネルギー向け大型 LPG 運搬船

#### 「DORAJI GAS」の命名式を実施

三菱重工業は、11月29日、アストモスエネルギー株式会社向け大型 LPG 運搬船の命名式を当社長崎造船所にて執り行いました。命名式では、アストモスエネルギーと共同で本船を用船する韓国の E1 Corporation クー会長が本船を「DORAJI GAS」と命名され、引き続きクー会長令夫人が支綱切断を行われました。本船は、来年 1 月の引渡しを予定しています。

本船は、アストモスエネルギーから受注した大型 LPG 運搬船で、当社グループの三菱重工船舶海洋株式会社 (MHISB、社長：横田 宏、本社：長崎市) にて建造したものです。長さ 230.0m、幅 36.6m、深さ 21.65m、総トン数は約 4 万 8,300トン、LPG 積載量は約 8 万 3,000 m<sup>3</sup> で、積載された LPG から侵入熱により発生する気化ガスを液化してタンクに戻すための再液化装置を搭載しています。また、独自の船型を採用したことなどにより、優れた燃費性能と LPG ターミナルごとに異なるさまざまな接続条件への高い適応性を実現、本年運用が開始された新パナマ運河を通過できるよう、係船装置なども世界最新の設備を搭載しています。

今回命名された DORAJI GAS を加えると、アストモスエネルギーは自社所有の 5 隻および他社と契約している定期用船 17 隻を合わせ、計

22 隻の大型 LPG 運搬船を運用する事となります。そのうち自社所有船すべてと定期用船 11 隻の計 16 隻は、三菱重工 長崎造船所で建造したものです。

同社は、2015 年度からの新中期計画で、現在年間 1,000 万トンの LPG 取扱量を 2017 年までには 1,200 万トン超まで増やすことを目指しており、LPG 輸送体制を拡充していく方針です。

当社は、船舶および主要な船用機器を手掛ける総合力を駆使することとさらに運用効率に優れた LPG 運搬船の開発に注力するとともに、積極的な提案営業を展開していきます。

#### ■主要目

総 トン 数 : 約 48,300トン

全 長 : 230.00m

型 幅 : 36.60m

深 さ : 21.65m

タンク容 量 : 約 83,000 m<sup>3</sup>



【DORAJI GAS】

## 名村造船所

Namura Shipbuilding

### 名村造船所 工場見学会を開催

名村造船所伊万里事業所では日頃からお世話になっている地元地域の皆様を対象に、工場及び建造船の見学会を平成28年11月13日(日)に開催致しました。

伊万里市周辺地域への新聞折込みチラシや地元ケーブルテレビを利用し広告をおこない、一般来場者や当社関係者のご家族や友人など、合計3,726名の来場者で賑わいました。

見学コースは建造工程に沿ったもので、鋼板の切断からブロック組み立てを行う内業工場を始点とし、大型クレーンが構える建造ドックを経て艀装岸壁に係留中の8万2千トン型バルクキャリアの船内見学ができるコースで、来場者は一枚一枚の鋼板から大きな船ができる工程や、操舵室からの壮大な眺めなどを見学し、スケールの大きさを体感されていました。来場者からは「なぜ鉄でできた船が浮くの?」、「鋼板の厚みや重量は?」、「船にはどんな荷物を積むの?」など様々な質問を頂き、当社スタッフの回答に耳を傾けておられました。また、「よく整理されたキレイな工場で、イメージと違った」とのお褒めの言葉も頂きました。

その他、昼食コーナーでの食事販売や物産展コーナーでの地元特産品などの販売もあり、来場者は家族で昼食をとったり、ショッピングを楽しんでいました。

この日は好天の中、多くの来場者に恵まれ、大きな事故や怪我もなく盛況の中で見学会を終えることができました。



【船殻内業工場】



【船殻内業工場出棟口から総組定盤へ】



【見学船ナビデッキ】



【物産コーナー】